江陵 開幕戦で涙

夏の高校野球 北北海道大会

旭大に0―4 打線つながらず

【旭川】第1日は15日、旭川市スタルヒン球場で1回戦を行い、2年連続の開幕戦となった江陵（2年連続6度目）は旭川大（旭川、2年連続21度目）に0―4で敗れ、8強入りを逃した。江陵は序盤、押し気味に試合を進めたが、あと一本が出なかった。先発の小森翔也（3年）が七回途中まで粘投した。帯大谷（4年ぶり5度目）はこの日の第3試合で稚内大谷（名寄、3年連続31度目）と対戦した。

試合に先立ち行われた開会式では、昨年の代表校クラーク記念国際（空知）を先頭に、十勝支部の江陵、帯大谷、白樺学園など16校が行進。稚内大谷の上川原文登主将（3年）が選手を代表し、「スタルヒン球場が日本で一番暑い夏になるよう魂を込め、最後まで白球を追い続ける」と宣誓した。始球式はリオデジャネイロ五輪柔道女子78キロ超級銅メダリストの山部佳苗さん（札幌市出身）が行った。（北雅貴、金野和彦）

４年連続17度目出場の白樺学園

４年ぶり５度目出場の帯大谷

２年連続６度目出場の江陵

【１回戦・江陵―旭川大】江陵は５回２死二塁のピンチで旭川大の二走・高谷耕平を二、三塁間で挟殺。右は江陵の平井幸輝二塁手

◇1回戦

江陵	0	0
旭川大	4	4

江陵	0 0 0 0 0 0 0 0 0
旭川大	0 0 0 2 0 0 0 2 0 ×

江陵は投手を中心に粘り強く戦った。先発の小森が四回に無死から3連続バント安打を決められ満塁とされ、2本の内野ゴロで2失点。それでも再三のピンチを招きながらも七回途中まで力投した。救援の笹森も打者4人を完璧に抑えた。

打撃は初回の平井、二回の高橋と先頭打者が安打で出塁したが、いずれもけん制死。二回までで4安打したが無得点に終わり、三回を除き毎回走者を出したが、後続が続かず本塁が遠かった。最後まで攻撃のリズムをつくれなかった。

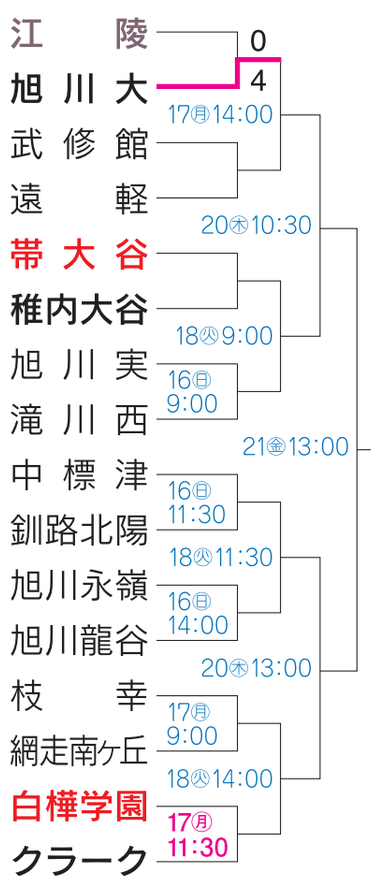
諦めない姿勢貫く

「最後まで諦めない姿勢を見せるのがベンチ入りしている選手の責任。果たせたと思う」。高橋良太主将（3年）は胸を張った。

相手投手のけん制で一、二回に一塁走者が刺された。四回の守備で内野ゴロの間に2失点する苦しい展開でも小森翔也（同）は120キロ台半ばの速球とスライダー、カーブを交えて我慢。打たせてアウトを取ることを意識、「ベンチ入りできなかった3年生のために」（小森）と立ち向かった。七回に力尽きたが背番号1らしく堂々と投げた。

右腕がパジェット・シュレッター症候群（労作性血栓症）と診断され本調子でない工藤遼太朗（同）は八回、先頭打者で二塁ゴロを放った際、一塁へ気迫のヘッドスライディング。谷本献悟監督は選手の健闘に「支部予選で負けると、やっぱり去年は古谷（優人投手）がいたからになってしまう。今の選手が否定されるのが嫌で厳しく指導した。北大会出場は選手たちのおかげ」と感謝した。

幕別との学校統合の話が進み、学校名がなくなる可能性がある中、高橋主将は「江陵の名前があるうちに甲子園に出場してほしい」と後輩たちに夢を託した。



先発選手

【江陵】

守	氏名	年
4	平井幸輝	3
6	佐藤那都	3
9	工藤遼太朗	3
7	木村晏士	1
5	高橋良太	3
1	小森翔也	3
3	及川翔大	3
8	丑若雄太	3
2	大井滉平	2

【旭川大】

守	氏名	年
9	澤口魁人	2
4	高谷耕平	2
5	菅原礼央	1
8	佐藤廉悟	3
3	楠茂将太	2
7	平澤永遠	2
1	沼田翔平	2
6	青木亮樹	2
2	中筋大介	2